

**早稲田大学大学院日本語教育研究科  
修士課程コースⅡ（現職社会人コース）科目履修について**

## **1. 研究指導**

毎学期、指導教員の研究指導を受ける。1期目は、研究科が指定した指導教員の研究指導を受ける。2期目以降は、1期目終了時に学生の希望に基づいて決定した研究指導教員からの研究指導を受ける。3期目以降（復職後）は、個別に指導教員と連絡をとり、対面あるいはメール、Skype 等で指導を受ける。指導教員の変更を希望する場合は、毎学期定められた期日までに「研究指導教員変更申請書」を提出し、日研運営委員会の承認を得ることによって、変更することができる。

## **2. 科目履修**

### **(1) 日本語教育学演習**

1～2期目に4科目を履修し、計8単位を修得する。

1期目：演習I（全専任教員が担当／選択の必要なし）

演習II（希望する教員の担当する演習を選択）

2期目：演習III（希望する教員の担当する演習を選択）

演習IV（希望する教員の担当する演習を選択）

### **(2) 日本語教育実践研究**

1～2期目に日本語教育実践研究（1）～（16）から2科目以上、3期目に日本語教育実践研究（18）、計9単位以上履修する。同一学期に2科目までの履修を認める。

日本語教育実践研究（1）～（16）は、設置された曜日・時限のほかに、担当教員が指定する実習クラス（日本語教育研究センター設置科目等）での参観・実習等が義務付けられるため、実習クラスと同一曜日・時限の他科目の重複履修は認められない。各科目の実習クラスの曜日・時限等は、各科目のシラバス及び時間割を参照すること。

日本語教育実践研究（18）は、所属の職場における実践であり、指導教員による15回の対面または遠隔指導（Skype 等を利用）を受ける。

海外大学における実践科目である日本語教育実践研究（17）を履修する場合は、履修形態がコースⅡ（現職社会人対象）からコースIに変更となる。希望する場合は事前に相談すること。

### **(3) 日本語教育学理論研究**

1～2期目の間に、計10単位以上を履修する。

同一学期での登録科目数の制限は特に設けない。

日本語教育実践研究の実習クラスとの曜日・時限の重複は認められない。

### **(4) 自由選択科目**

1～2期目の間に、3単位以上履修する。

日本語教育学理論研究及び日本語教育実践研究の修了必要単位数を超えた分、また「他研究科設置科目」「大学院全学共通設置科目」から履修する。

＜履修モデル＞

区分	1年		2年		必要単位数
	1期目	2期目	3期目	4期目	
日本語教育学演習	4単位	4単位	—	—	8単位（2単位×4科目）
日本語教育実践研究	3単位	3単位	3単位	—	9単位（3単位×3科目）
日本語教育学理論研究	6単位	4単位	—	—	10単位（2単位×5科目）
自由選択科目	3単位		—	—	3単位
合計					30単位

**3. 修士論文 (<https://www.waseda.jp/fire/gsjal/student/thesis/>)** (詳細は日研 HP 参照)

(1) 中間発表（1期目）

演習IIの学期後半の12・13・14週合同ゼミにて中間発表を行う。中間発表資料は前週水曜日23:59までにMyWaseda申請フォームにて提出する。

(2) 2期目研究ノート提出（2期目）

中間発表を踏まえて、2期目研究ノートを以下の期日までにメールあるいはコースナビで指導教員へ提出する。具体的な手順等については指導教員に確認する。

【提出締切日】3月20日23:59厳守

(3) 3期目論文提出（3期目）

修士論文を見据えて、3期目論文を以下の期日までにMyWasedaのBOXへ提出する。なお、3期目論文をもとに、修士論文主査・副査が決まる。

【提出締切日】9月20日23:59厳守

(4) 修士論文提出（4期目）

3期目論文が提出されていることを条件に、修士論文を所定の日時に提出する。

体裁が整っていない場合、必要な書類が不足している場合は、いかなる理由であっても受理することができないので注意する。なお、5月下旬より日研事務所にて論文カバー等を配布する所以必ず取りに来ること。

(5) 口頭試問

所定の日時に早稲田キャンパスにて口頭試問を実施する。

**注)所定の日時に大学にお越しいただくことになりますので業務をご調整ください。**

(6) 修士論文の合否

修士論文の合否判定結果は、日研WEB掲示板にて発表する。

**4. その他**

出願後～第3期の間に職場や職場における事情が変わり、出願時に予定していた職場における日本語教育に関する実践活動（＝「日本語教育実践研究（18）」）ができなくなった場合は、速やかに当研究科に申し出ること。場合によっては履修形態がコースIに変更となる場合がある。